

鑑賞教材をつかって

🌀 展開例

- 目的**
- ・「こいそさんカード」を鑑賞し、感じ取ったことがより伝わるように言葉を選び、つなげたり並べ替えたりしながら、カルタの読み札の文章を考える。
 - ・自分たちがつくったカルタをつかって低学年とカルタ大会をし、作品のよさや美しさをともに味わう。

4年生の取り組み

- ・小磯良平作《踊り子》から見つけたことを手掛かりに、感じたことを自分の言葉で伝え合う活動を通して、より深く作品を味わう。

5年生の取り組み

- ・「こいそさんカード」を鑑賞し、作品から感じとったことを「キーワード」として言語化する。
- ・プログラムの思考を活用し、「キーワード」をもとに、作り方の手順を考えたり、確かめる活動なども行う。
- ・2年生を招き「カルタ大会」を開催する。

🌀 授業の様子・板書・読み札

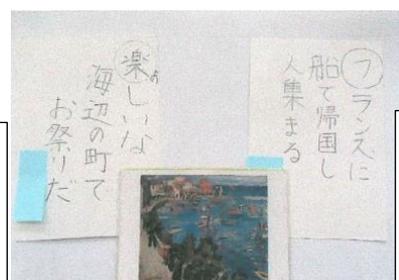


発表会
失敗したの
バレリーナ



どうしたの
なやんでいるの
だいじょうぶ

楽しいな
海辺の町で
お祭りだ



フランスに
船で帰国し
人集まる

🌀 今回の取り組みについて

授業の導入で、他館の名画カルタを提示し、「小磯さんカルタの読み札を作ってみよう。」と投げかけた。子供たちは、兵庫県出身である小磯良平の作品《踊り子》を4年生の時に対話型鑑賞を行っているので、身近な存在である。作成にあたっては、「五七五の十七音にまとめること」と、「低学年でも楽しめること」を読み札の条件として設定したことで、子供たちはより作品のよさや特徴が伝わるような言葉を精選し、並べ方など試行錯誤を繰り返していた。また、プログラミング的思考を取り入れたことで、全員が学習のめあてと手順を共有し、一人一人が目的意識をもって、楽しく学ぶことができた。単元の最後には、2年生を招き、「カルタ大会」を開催した。2年生が自分達の考えた読み札から作品の特徴やよさを感じ取り、真剣に取り組む姿を見て、5年生も笑顔で楽しいかるた大会になった。